

ある。2001年に関しては、上記各要因の他にエノキの葉の総量が成虫発生数に関係したようだ。表-1では2000年6月4日の観察頭数を“38+数百”としているが、これは野帳の記載そのもので、実際には観察ルートの路上で観察した頭数が38、また三条第二堰堤上流の広場に吸水に集まっていた頭数が数百となっている。これは、堰堤上流に集まった数があまりに多すぎてカウントを断念したためであり、今思えば時間を掛けてでも、より正確な概数のカウントを行っておくべきだった、と反省している。なおその状況を撮影しているが、写真では450頭程カウントできる。1000頭以上集まっていたのかも知れぬ。

ところで、表-1の新成虫の最多頭数はかなり不確かな要素を含んでいる。観察日によって頭数の変動が大きいからである。これは、観察日の天候など

の影響の他にも、新成虫は羽化後しばらくは付近に止まるが、その後急速に分散していくらしいことから、ピークを含んだ連続的な観察の結果でない表-1の最多頭数はあくまで参考値である。これに関しては、2000年6月4日の状況は写真記録で一部状況確認ができるが、その中では羽化途中、直後の新成虫が多数見られ、また羽化までに1日以上はかかりそうな緑色の蛹も見られる。それらはカウントしていない。ルートでの種別カウントは通常の歩行で観察できる成虫の数としているためである。

発生地における成虫の観察数の変化に関して、参考までに2001年5月中旬以降6月にかけて、当該区間を訪れた全観察でのテングチョウの観察頭数を表-2に示す。

(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西町3-4)

表-2 2001年の観察数の変動

月 日	観察頭数	備 考
5/20	36	越冬成虫17頭、新成虫19頭
6/03	275	最多観察頭数(一部越冬成虫を含む)
6/09	25	一部越冬成虫を含む
6/10	21	同 上
6/17	8	

アオマダラタマムシ、オオムツボシ タマムシ神戸市内での記録 山本 勝也

筆者は県内での採集例が少ないと思われるタマムシ科の2種の標本を所蔵している。そのデータをここに報告する。

1. アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis* (Snellen van Vollenhoven)

神戸市北区君影町君影小学校内

1ex. 21.VIII.1998 山本哲也採集

神戸市須磨区離宮西町北須磨小学校内

1ex. -.VI.2000 太田順江採集

同所 1ex. 4.IX.2000 山本剛史採集

神戸市須磨区須磨寺町須磨寺境内

1ex. 8.VIII.2001 山本こずえ、さなえ採集

2. オオムツボシタマムシ *Chrysobothris ohbayashii* Y.Kurosawa

神戸市須磨区須磨寺町

1ex. 26.IV.1999 山本勝也採集

どの個体も偶然に採集されたもので、発生木の確認には至っていない。

最後に発表をお勧めいただいた高島 昭氏、各標本

をご提供いただいた各氏に深くお礼申し上げます。

<参考文献>

高橋寿郎(1998):兵庫県のタマムシ(1)

きべりはむし第26巻第1号 p.15-18

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

神戸市須磨区におけるギフチョウの記録 山本 勝也

筆者は神戸市須磨区内において、偶然にもギフチョウ *Luehdorfia japonica* Leech を採集しているので、ここに報告する。

神戸市須磨区離宮西町

1ex. 7.IV.2001 山本勝也採集

筆者の知る限り採集場所周辺には食草となるカンアオイ類の自生場所はなく、本種が生息するような環境は見当たらない。本個体はおそらく放蝶されたものではないかと思われる。

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)